

なし黒星病の発生が多い

～ 発病部位の早期切除と薬剤散布を徹底してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

6月中旬のなし巡回調査における黒星病の果そう葉の発病葉率は0.15%（平成0.04%）、発病地点率は40.0%（平成8.9%）でいずれも高く、果実の発病果率は0.17%（平成0.05%）、発病地点率37.5%（平成10.0%）でいずれも高かった（表-1）。また、6月中旬の巡回調査における発病果そう葉率の年次推移を見ると、黒星病が多発した平成28年及び平成30年に次いで、過去3番目に多かった（図-1）。

6月15日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量はほぼ平成並と予報されているが、東北地方は6月11日ごろ（平成6月15日ごろ）、梅雨入りしたと見られる。

以上のことから、既に発病が見られる園地では、今後の降雨による2次伝染で発生量がさらに増加する可能性があるため、発病部位を直ちに摘み取り、薬剤防除を徹底する。

2. 防除対策

- 1) 今年の幸水の満開日から、黒星病に対する果実感受性は6月下旬～7月中旬頃にかけて高まると推定される。果実への感染を防ぐため、直ちに発病部位（図-2、3）の切除を行って園外へ搬出し、土中埋没するか焼却処分する。
- 2) 7月上旬までに新梢の摘心と徒長枝の剪去を徹底し、薬剤がよくかかるようにする。
- 3) 有袋栽培の場合は、薬剤を散布した後の袋かけを速やかに行う。
- 4) 薬剤は表-2から選択し、散布液量は300～700L/10aとする。スピードスプレーヤーで防除する場合は、1列おきではなく全列を走行し、かつ低速で丁寧な散布する。
- 5) 薬剤の散布は10日間隔で行う。降雨が続くと予想される場合又は発病の見られる園地では、散布間隔を7日とする。幸水は本病に弱いので特に注意して防除する。

3. 資料

表-1 巡回調査(6月)における黒星病の発病状況

	果そう葉		果実	
	発病葉率	発病地点率	発病果率	発病地点率
2023	0.15	40.0	0.17	37.5
平成	0.04	8.9	0.05	10.0
概評	多	多	多	多

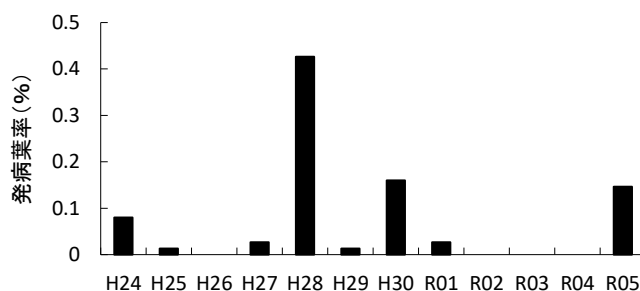


図-1 巡回調査(6月)における果そう葉率の年次推移



図－２ 葉の病斑



図－３ 果実の病斑

表－２ なし黒星病の防除薬剤

RAC コード	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	各成分の総使用回数
M4・M1	オキシラン水和剤	600倍	収穫3日前	9回以内	アイ
M4	オーソサイド水和剤80	800倍	収穫3日前	9回以内	イ
M7・M1	ベフキノン水和剤	1,000倍	収穫45日前	4回以内	アウ

M1：銅剤 M4：キャプタン剤 M7：イミノクタジン酢酸塩剤

ア：有機銅（12回以内（塗布は3回以内、散布は9回以内）） イ：キャプタン（9回以内）

ウ：イミノクタジン（5回以内（塗布剤は2回以内、液剤は1回以内））

【問合せ先】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
天王分場班	TEL	018-878-2251
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		